

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ ていすいきかくしつ		団体ウェブサイトURL
	有限会社 貞水企画室		
代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士		
制作団体所在地	〒 113-0034	最寄り駅(バス停)	東京メトロ湯島駅
	東京都 文京区 湯島3-32-3		
電話番号	03-3831-1555		
ふりがな 公演団体名	ゆうげんがいしゃ ていすいきかくしつ		団体ウェブサイトURL
	有限会社 貞水企画室		
代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士		
公演団体所在地	〒 113-0034	最寄り駅(バス停)	東京メトロ湯島駅
	東京都 文京区 湯島3-32-3		
制作団体 設立年月	平成16年11月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	浅野丈太郎、浅野ゆき子、小池将直	講師・一龍斎貞友、一龍斎貞橘	
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	小池岳士
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	小池将直
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:kikaku@teisui.co.jp">kikaku@teisui.co.jp</a>		

<p><b>制作団体沿革</b></p>	<p>2004年に有限会社貞水企画室は、講談界初の人間国宝・一龍斎貞水により設立された。故・一龍斎貞水の遺志を受け継ぎ、未来の講談界に繋ぐべく『講談普及』『講談伝承』の二つの柱を目的とし活動</p> <p>『講談の普及』 貞水のことば「伝統(講談)は今の時代に持て囃され、はじめて守ったことになる」 講談の守るべき伝統と、時代の求めに応じ変化する事柄を踏まえ、様々なアプローチで講談普及に努める。</p> <p>『講談の伝承』 貞水のことば「先人から受け取った講談を後世に伝える」 文化庁の補助事業「文化財関係国庫補助事業」、講談協会主催による『伝承の会』の制作・監修・助成を行っている。この事業は『伝承』を目的に会派・門・東西の垣根を超え講談界が一つとなって行われている。若手から中堅の講談師(受講生)とベテランの講談師(講師)を結び付け、一年間の稽古を経て発表会を行う。</p> <p>『東京文化財研究所・実演記録』 ※貞水のみ知る貴重な読み物(演目)を実演記録しました。</p>					
<p><b>学校等における公演実績</b></p>	<p>講談普及のため学校公演に毎年20～40公演参加</p> <p>平成21年度「本物の舞台芸術体験事業」参加作品 平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験事業」参加作品 平成23年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成24年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成25年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成26年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成27年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成28年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成29年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成30年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 令和3年度「文化芸術による子供育成総合事業」参加作品 令和4年度「文化芸術による子供育成推進事業」参加作品 令和5年度「文化芸術等総合支援事業」参加作品【A・C2区分で参加】</p>					
<p><b>特別支援学校等における公演実績</b></p>						
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/fJAL AeZwf98">https://youtu.be/fJAL AeZwf98</a></p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="938 1995 1018 2040">ID:</td> <td data-bbox="1018 1995 1447 2040"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="938 2040 1018 2074">PW:</td> <td data-bbox="1018 2040 1447 2074"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	「講談の世界」ワークショップ「講談教室」本公演「講談〇〇亭」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>読み物は、生徒さんご様子や反応を見て、公演当日、厳密には高座に上がってその場で選択をします。 ※講談では演目を「読み物」といいます。</p> <p>&lt;ワークショップ&gt;では 軍談(修羅場よみ)「三方ヶ原軍記」など ※クイズコーナーでは各ジャンルの特徴的な部分をご紹介します。</p> <p>&lt;ワークショップ→本公演&gt;では 連続講談 「海賊退治」「宮本武蔵」など決闘シーン(立ち回り)のある読み物 本来は一席の読み物を途中のいいところで切って、後半は本公演に</p> <p>&lt;本公演&gt;では 二席の講談は ○いずれかに怪談物を入れる ○江戸と上方 ○新作と古典 など変化を付けて構成します。</p> <p>読み物は 子供が登場する「越の海」、決闘シーンが迫力の武芸物「荒木又右エ門」「宮本武蔵」、 おどろおどろしい怪談物「四谷怪談」「耳なし芳一」、歴史上の有名人が登場する読み物など いずれも児童生徒さんに親しみ易い内容を口演致します。</p> <p>※ワークショップから本公演で、様々なジャンルの講談をご覧いただけます。</p> <p>※別添①参照</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	※別添②参照			
演目選択理由	<p>これからの日本を担う子供たちに、日本の伝統話芸・講談を知っていただきたい・・・</p> <p>学校の先生方へ</p> <p>「講談」は「講釈」と呼ばれていました。それは江戸時代、字の読み書きが出来なかった庶民に、浪人などの知識人が「太平記」など歴史の本を解りやすく解説を交え、講釈をしながら読んで聞かせていたからです。 講談師が前に置く小机(=「釈台」)には本来は本が置かれます。今でも演目の事を「読み物」と呼び、講談師(真打)を「先生」と呼ぶのは、その当時の名残なのです。講談師の祖先は、今の学校の先生みたいなものだったのです。 そして徐々に演芸として発達してゆきます。するとお客様が飽きない様に様々な工夫が施されました。物語には脚色を加えられ、語り方も講談調という独特の調子、「張り扇」を叩きながら話にメリハリを付けます。 こうして講談は時代、時代の人々に愛され、今に繋がれて来たのです。</p> <p>講談には、日本人が持つ先人からの知恵、人を思いやる道徳心、そして日本語の美しさがあります。</p> <p>「風化しつつある日本の大切なもの」・・・講談を通して学んでいただけます。</p> <p>～講談から実際にこんなことが学べます～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の大切さ(相手に伝わる話し方)</li> <li>・人と人との交わり方(友達・親子・先生と生徒)</li> <li>・目上の人との接し方や、言葉の使い方</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面倒を見るということの意味(弱者や困っている人を助けること)</li> <li>・作業も工夫をすれば、こんなに早く終わる  <div style="text-align: right;">などなど</div> </li> </ul> <p>子供たちがこのプログラムを通して講談の魅力を感じ、そしてまた観たいと思っていただけるよう、このプログラムがそのキッカケになればと願っております。</p>		
<b>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●係として公演の運営を、一緒にお手伝いいただきます。  会場係(10名程度)＝会場のご案内  前座係(3名程度)＝講談発表会の高座返し(座布団を返す)</li> <li>●ワークショップでは体験を随所に織り交ぜています。  またクイズ形式で問いかけながら生徒さんと一体となって進行してゆきます。</li> <li>●ワークショップでは全員がお稽古できる仕組みになっています。  ⇒そして代表の生徒さんが本公演で発表。</li> </ul>		
<b>出演者</b>	<p>&lt; 講談 &gt; 真打3名 二ツ目1名 前座1名  &lt; 色物 &gt; 1～2名</p> <p>※別添③参照</p> <p>※講師は講談協会・日本講談協会・上方講談協会・なみはや講談協会・大阪講談協会・フリーより。</p>		
<b>本公演  従事予定者数  (1公演あたり)  ※ドライバー等  訪問する業者人数含む</b>	<p>出演者: 6～7 名</p> <p>スタッフ: 4 名</p> <hr/> <p>合 計: 10～11 名</p>	<b>運搬</b>	<p>積載量: 1 t</p> <p>車 長: 5.3 m</p> <p>台 数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間			
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時	13時30分～15時	10分	～17時	17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	14日	9日	19日	22日	
	11月	12月	1月	計	137日	
	20日	18日	15日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	制限なし
		鑑賞人数目安	制限なし

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出や  
がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

(図1)ワークショップ公演の様子。ワークショップではステージ上でなく、フロアに高座を設営いたします。高さなどに境界を設けずに、より親しみをもって、解説を聞いていただきたための工夫です。



(図2)本公演の舞台セッティングが完了した状態。寄席を再現した舞台をステージ上に設営をし、臨場感たっぷりにご鑑賞いただけます。各学校のステージサイズに合わせ、調整しながら設営をいたします。



(図3)会場には、のぼりや講談に関する展示を設営いたします。



(図4)入場時には、担当の児童・生徒さんに、法被を着て、他の児童・生徒さん方を  
お出迎えをしていただきます。



【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	制限なし
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>※別添④参照</p>		
ワークショップの ねらい	<p>～自然に馴染めるように～</p> <p>各項目でポイントを絞り、講談がどんな芸能なのか？ プログラム全体をとおして自然に、講談を知り、そして親しめる仕組みとなっています。 様々な角度からアプローチします。テンポよく飽きずにお楽しみいただける工夫を施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○興味を持たせる <ul style="list-style-type: none"> <li>・張り扇の作成…自前で作成する事で講談への興味を高める</li> <li>・全員で生徒さん自前の張り扇を叩く</li> </ul> </li> <li>○楽しく鑑賞いただけるように <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手3名が、それぞれの特徴を生かし賑やかに進行</li> </ul> </li> <li>○理解をさせる <ul style="list-style-type: none"> <li>・「朗読」や「落語」と比較して『講談』の特徴を解説</li> <li>・随所に実演を交えながら解説</li> </ul> </li> <li>○関心をさせる <ul style="list-style-type: none"> <li>・講談調の迫力の語り、プロの技を体感</li> <li>・学校エピソードを即興で仕立てられた講談を鑑賞 (講談がどうやって創られるのかを解説)</li> </ul> </li> <li>○表現力を高める <ul style="list-style-type: none"> <li>・講談で自己紹介→手を上げた生徒さんは皆の前で発表</li> </ul> </li> </ul>		

<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>ワークショップと前後の事前・本公演プログラムが繋がっています。</p> <p>&lt;事前&gt;「張り扇」の作成 動画DVD鑑賞 ↓ &lt;WS&gt;お稽古(体験・創作)※自作の張り扇を使用します。 ↓ &lt;本公演&gt;発表 ※お稽古の成果を発表</p> <p>ワークショップでは体育館フロアに高座を設置します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・より身近な距離感で親しんでいただけるように。</li><li>・講談チャレンジ其の二ではフロアを3三ブロック分け、グループごとでお稽古を行います。</li></ul> <p>※別添④参照</p>
----------------------------	--

本事業への申請理由

【公演団体名

有限会社 貞水企画室

】

## ①本事業に対する取り組み姿勢

伝統話芸・講談の普及

講談は落語とならび日本の伝統二大話芸と称されています。

この二つの伝統話芸には日本人でこそ味わえる人情の機微、慣習、季節感などが溢れています。そして日本の国でなければ、日本語でなければ生まれ発展しなかった芸能だとも思います。この魅力を知ればきっと日本人で生まれてよかったと感じられることでしょう。

ただ残念なことに講談は落語と比べても認知されていないのが現状です。

格調高い語り方や、史実に基づく内容が「難しいそう」と思われてしまうでしょう。

難しい本を分かり易く解説(講釈)を交えて、噛んで含めるように読んで聞かせたのが講談の最初。それが芸能へと発展していく中で物語はより劇的な脚色を加えられ、演じ方も聴き心地のよい講談調という独特の語り口に、張り扇をパンパンと叩きながら話にメリハリをつけてお客様が楽しめるよう様々な演出が成され今に至るのです。明治時代までは講談が庶民の娯楽の中心にあったことから解る様に、講談はかつて難しい芸能ではないのです。

故・一龍斎貞水は「伝統を守るということは、先人から受け継いだ芸をただ上手に演ずることだけではだめ、その時代の人(お客様)に受け入れられてこそ本当に芸を守ったことになる」とよく言っていました。

講談は今でも時代の求めに応じて変化しています。

当プログラムも講談に初めて出会う生徒さんに自然に親しんでいただけるよう、様々な工夫が凝らされています。

余計な先入観のない感受性豊かな子供たちに今、この世界にも誇れる素晴らしい伝統話芸・講談をお楽しみいただき、先の人生の喜びの糧の一つになればと願います。

## ●講談から「人」を学んでほしい

人情の機微、人の善悪、人と人との繋がり、日本人が大事にしてきた美徳や道徳観。風化しつつある大切な事が講談にはたくさん詰まっています。講談からあるべき人のすがたを知れます。

## ●講談から「正しい日本語」「美しい日本語」を学んでほしい

講談調とは聴き心地のよい独特な七五調のリズミカル。講談から正しい日本語、そして美しい日本語の響きを知れます。

## ●講談から「積極性」を身につけてほしい

講談発表を終えた実績校では、「内気な生徒が代表に選ばれましたが、その際意欲的に練習し、自信がついたようで、明るくハキハキと発言するようになった」「小さかった声の生徒が大きな声を出せるようになった」などのお声をいただきました。この事業を通じて生徒の積極性を養い、人前で表現する自信をつけてもらいたい。

☆プログラムの目的は ～「また観てみたい」と思っただけけるように～

前述した魅力や学んでほしいことは、一度の公演(出会い)ですべて理解し入れることは不可能です。これは講談に限ったことではないと思います。何度も触れることによってその魅力を知り、深みが増していくものです。

公演後に「面白かった」→「また観てみたい」と思っただけけるようにする。そこに当プログラムは重点を置いています。公演終了後、生徒さん方から「楽しかった」「迫力があった」「怖かった」など手応えを感じるお声を多数いただいています。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫



## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

○学校公演を中心に講談普及活動を年間30～70本のペースで十数年にわたり取り組んで参りました。その経験を生かして対応します。

○本物の芸に触れてほしい

本物の芸に理屈はありません。ただ圧倒的な説得力があるものです。  
心に残り続けるほのかな余韻は、その芸に触れた人だけが知る至高の贅沢。

○本物の舞台(ハード)を設営

良いものにはしっかりと衣をつけ、さらに良いものとする。  
本格的な寄席舞台を設営いたします。

リンク先 No.2

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

**別添①**

講演本公演プログラム

# 講演〇〇亭

本公演時間 90分

※〇〇には学校名が入ります。

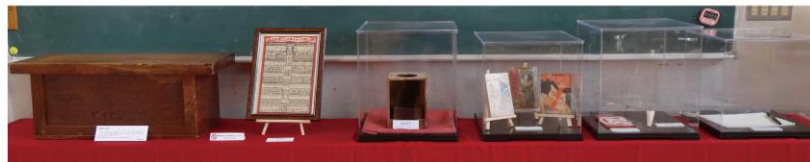
**この日、体育館が講釈場に変わります。**

講演最後の定席（講釈場）。本牧亭の様子。

## 本公演と合わせてお楽しみ

### ！ 講演ミニ博物館（展示コーナー）

※一龍斎貞水が実際に使用していた道具と、所蔵していた品の展示



本公演演目

**扇子** 張り扇 貞水が自身で制作し、使用していたもの



**講演番付表** 相撲の番付表に倣い、昭和初期に作成された物



**火鉢（手あぶり）** 本牧亭でお客様に配られていた小さな火鉢



**釈台** 講演最後の釈場・本牧亭で実際に使用されたいた昭和初期の釈台

**点取り本** お稽古を受けるときに自身でポイントを記す本

**拍子木** 本牧亭で使用していた物



## ！ 本格的な釈場を再現

講談の興行（公演）が行われている寄席（劇場）を釈場と言います。江戸時代には江戸の各町内にあったそうです。当時、講談は庶民の娯楽の中心でした。



## ！ 釈場の運営に参加

児童生徒さんに半被を着けて、運営をお手伝いしてもらいます。



のぼり等会場の設営、入退場の案内



講談発表会の高座返し  
(座布団・メクリをひっくり返します)



本公演演目

〇〇〇には、  
学校名が入ります。

### プログラム

- 一、 講談入門
- 二、 講談発表
- ！ 三、 講談
- お仲入り
- 四、 連続講談・後半
- 五、 色物 紙切りなど
- ！ 六、 講談

三
☆

講談には・・・

上方と江戸

新作と古典

どちらか一席に  
怪談を入れる

など  
プログラムにアクセント  
を入れ構成します。



さあ！  
いよいよ開演です！



## 講談入門 ~ 釈場へようこそ ~

### 1 ワークショップのおさらい

講談をより楽しく鑑賞してもらえるよう、ワークショップの内容から「張り扇」の叩き方など、演技特徴を中心におさらいします。



### 2 講釈場の解説

講釈場を再現した雰囲気たっぷりの舞台（高座）の中で、講談専用の劇場（寄席）である講釈場の説明をします。



### 3 本日の番組紹介

本日の番組（プログラム）のご紹介に合わせ、講談界の仕組みを簡単にご説明します。

講談の世界には  
**「前座」「二つ目」「真打」**  
と三つの階級があります

**江戸と上方**  
の講談があります

- ◎ 「真打」になると周りの人から「先生」と呼ばれお弟子さんも取れるようになります。
- ◎ 休憩の事を「お仲入り」って言います。その意味。
- ◎ 色物は番組に色を添えるから色物。
- ◎ トリ（最後）とは最後に登場する出演者の事。今日は講談界の看板真打が登場するよ。
- ◎ 江戸と上方の講談の違い。



## 講演発表会

お稽古（ワークショップ）で  
選ばれた代表による発表

ワークショップお稽古した成果をここで見せよう！

3グループの中から  
各代表チーム（三人一組）による講演発表



本公演演目



このコーナーでは前座係の生徒さんが高座返し・メクリを行います。



## 講演

こわーい怪談や、にぎやかな上方講演などを、  
お楽しみください。  
一龍齋貞友 演目「ゆきんこ十二郎」など





# お仲入り (休憩)



休憩中は展示を見たり、体験高座でお楽しみいただけます。

前回(前半)はワークショップイ

## 四

### 連続講談(後半) <瀬織退治、はらほろ天狗、宮本武蔵など>

※勢いのある若手講談師の講談で元気にスタート!



さて、この後どうなることか  
この後が、面白くなるんですけど...

講談の本来の姿であり醍醐味である連続物を、  
ごくごく短い読み物で再現

ワークショップ  
(前半)

いいとこで切る!

つづきはいかに!

本公演  
(後半)



さて、いよいよ  
相まみえる事になりました二人

本公演演目

## 五

### 色物 妙技の数々を楽もう

びっくり仰天!

紙切り、曲ごま、曲芸など「目」でお楽しみいただけます。



## 六

### 講談

トリには、看板真打ちの登場  
宝井琴梅 演目「蜘蛛の糸」など



# 本公演の様子

## 〇展示コーナー



▲演目パネル



▲講談ミニ博物館



## 〇班参加（会場班／前座班）

本公演演目



▲会場班のお出迎えの様子



▲使ったはっぴは皆で畳みます



▲前座班のお仕事（高座返し）の様子。座布団を返します

## 〇本公演



▲講談解説



▲講談発表会



▲生徒さんが、メクリを返します



▲講談師の白熱の高座。プロの芸に圧倒



リンク先

No.2

【公演団体名

有限会社 貞水企画室

】

別添②

# 講談の世界とは

ワークショップ「講談教室」

本公演「講談〇〇亭」

※〇〇には学校名が入ります。この日、体育館は講釈場になります。

出演：講談協会・日本講談協会・なみはや講談協会・上方講談協会・大阪講談協会・フリーより

講談界初の人間国宝・故一龍斎貞水の発案をもとに企画構成されております。



故一龍斎貞水【人間国宝】

## 講談とは...

釈台と呼ばれる小机を張り扇で  
パンパンと叩いて調子を取り、  
独得の七五調で物語を語る、これが講談です。

講談を演じることを「読む」といいます。

これは本来、釈台の上に本を置いて読む事を由来としています。

また演目は「読み物」といいます。

読み物の題材は、主に歴史上で実際にあった出来事や人物。それをそのまま語るのではなく、

聞き手が楽しめるよう、史実をもとに壮大な脚色を加えてゆきます。

江戸の時代から今に至るまで、庶民の娯楽として脈々と生きてきました。

講談は日本が誇る伝統話芸です。

## 演目概要

## プログラムの目的と構成

日本の伝統話芸・講談の魅力を「知る」ため、  
「学び」・「体験」・「鑑賞」の三つの柱で構成されています。

**学び** (ワークショップ)

実演・映像・クイズを交えながらの解説、  
展示ブースなど様々な角度から講談を学ぶ。

**体験** (ワークショップ)

張り扇の作成、講談の創作、  
そして講談にチャレンジ！

**鑑賞** (本公演)

本物の話芸を体感。

**知6**

講談の魅力と面白さを知ってもらう。  
そして日本語が持つ本来の美しさを感じてもらいます。



# 事前学習

体験

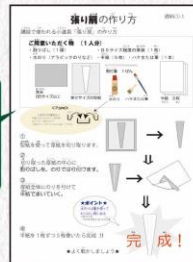
## 張り扇を作ろう

体験で使用します

※ワークショップまでに作成をしてもらいます。  
※事前の作成が困難な場合は、体験用の張り扇を当方で用意します。

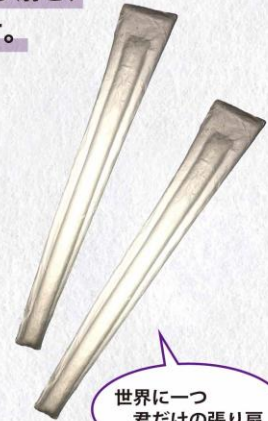
ワークショップと本公演で使用する張り扇を、  
児童生徒さんに作ってもらいます。

ご準備ご用意いただく物



別紙「張り扇の作り方」  
マニュアルを参考に  
お作りください。  
※動画「講談の世界」でも  
作り方の実演があります。

- ・割り箸
- ・水のり
- ・段ボール
- ・白い紙  
(半紙)



世界に一つ  
君だけの張り扇

演目概要

教材

## 「講談への扉」DVD 補足の教材として

※一龍斎貞水監修によるオリジナル動画です。

ワークショップの事前/本公演まで/本公演後のおさらい  
などに使用してください。

### 講談とは？

この動画を見れば  
講談の一通りを知る事が出来ます。

- ◎ 講談のルーツ
- ◎ 枳台と張り扇
- ◎ 高座（舞台）の裏側  
(楽屋の様子や前座さんの働き等)
- ◎ 読み物（講談の演目）  
ごとの読み方や演出  
などなど・・・



※ YouTube でも、ご覧頂けます。

リンク先 No.2

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

項目内容

別添③



※下記出演者以外の出演も可能です。

江戸（東京）

<b>宝井琴梅</b>	<b>一龍齋貞花</b>	<b>一龍齋貞心</b>	<b>宝井琴星</b>	<b>宝井琴嗣</b>
<b>一龍齋春水</b> <small>(アニメの戸田でもおなじみ)</small>	<b>一龍齋貞友</b> <small>(アニメの戸田でもおなじみ)</small>	<b>田辺誠鶴</b>	<b>一龍齋貞橋</b>	<b>神田春陽</b>
<b>田ノ中星之助</b>	<b>一龍齋貞寿</b>	<b>神田山緑</b>	<b>宝井琴鶴</b>	<b>神田重花</b>
<b>田辺銀治</b>	<b>宝井梅湯</b>	<b>一龍齋貞鏡</b>	<b>田辺いちか</b>	<b>田辺綾天</b>

上方（大阪）

<b>旭堂南左衛門</b>	<b>旭堂南麟</b>	<b>旭堂南海</b>	<b>旭堂南湖</b>	<b>旭堂山南鏡</b>
<b>玉田五秀齋</b>	<b>旭堂南岳</b>	<b>旭堂南斗</b>	<b>旭堂麟林</b>	<b>旭堂南鈴</b>

色物

<b>林家正楽</b> <small>&lt;紙切り&gt;</small>	<b>三増紋之助</b> <small>&lt;曲ごま&gt;</small>	<b>柳貴家雪之介</b> <small>&lt;大神楽曲芸&gt;</small>	<b>鏡味味千代</b> <small>&lt;大神楽曲芸&gt;</small>	<b>上口龍生</b> <small>&lt;マジック・和書&gt;</small>

リンク先

No.3

【公演団体名

有限会社 貞水企画室

】

別添④

# ワークショッププログラム 講談教室

ワークショップ時間 60分～90分

※児童、生徒さんの状況、学校様のご都合に応じて調整が可能です。

- 一、講談「三方ヶ原」～榎羅揚ふみ～
- 二、ごあいさつ
- 三、講談の読み方（語り方）
- 四、講談の道具説明（鞆合と振り扇）
- 五、みんなやっぴん！やっぴん！ 振り扇体験
- 六、講談ジャンルクイズ
- 七、学校エピソード講談
- 八、講談稽古
- 九、連続講談（前半）

各項目で知っていただきたい **知識ポイント** を絞り、  
 講談がどんな芸能なのか？  
 ワークショップ全体の流れの中で、  
 講談を知っていただける工夫を施しています

ぱりぱりぱりぱり！

## 講談教室スタート

タイプの異なる若手3人の出演により、  
 明るく元気にワークショップを進行していきます。



### 主な出演者



旭堂南湖



玉田玉秀斎



田辺凌鶴



一龍斎貞橋



宝井琴鶴



一龍斎貞寿



神田紅純



旭堂山南綾



神田山縁



宝井梅湯



神田董花



田辺いちか

など

ワークショップ実施形態  
及び内容



## ニュース講談の取材



学校到着後、ニュース講談を作成するために、  
講師が直接、取材をします。

知識ポイント 講談の雰囲気

### 一 講談「三方ヶ原」～修羅場よみ～

戦国時代武田信玄の軍が、徳川軍の城に攻めかかるシーン  
講談の迫力の語りと、威勢よくパンパンと鳴り響く張り扇。  
まずは講談がどんな芸能なのか？  
講談の基本である「修羅場よみ」を鑑賞してもらいます。



急に出て、何の前触れもなく一席！



あっけにとられる  
生徒さん



合戦の映像の前で もう一度！



合戦の様子がうかがえて、  
納得します。



「修羅場」とは激しい合戦の場面のことです。  
講師は入門すると先ずこの「修羅場よみ」の修行をします。  
そこで腹から声を出すことを覚え、声を鍛えます。  
そして講談の独特の調子と間の基本を取得するのです。



その後、様々なジャンルと修業は進んでゆきます。

### 二

## ごあいさつ

・出演者が、それぞれ自己紹介。



挨拶後、ニュース講談を作る為、  
1名は楽屋に戻り脚本を作ります。

ワークショップ実施形態  
及び内容

### 三、講談の読み方（語り方）

昔話「桃太郎」を講談調で聞いてみよう！



講談は講談調といって独特の語り方をします。  
七五調を使い話に抑揚を付けながら語ります。  
また話の最後に「切れ場」が付くのも大きな特徴です。



他の話芸との語り方と演出の違いを聞き比べてもらいます。  
そして講談の語り方の特徴を感じてもらいます。

滑らかで、みんなが  
慣れ親しんだ感じですね。



句読点にバンバンと張り扇が打たれ、  
話にメリハリがあります。



落語は講談と比べ  
さらさらとしゃべる感じ、  
そして最後にオチ（笑い）がありますね。



品があって桃太郎さんが  
とても立派に想像されますね。  
そして最後に「切れ場」という  
話の締めがありました。  
「見事、悪行重ねる鬼たちを  
打ち負かしました桃太郎一行（バンバン）～」



ワークショップ実施形態  
及び内容

## 四、講談の道具説明 (釈台と張り扇)

道具の説明をしながら、講談がどんな芸能なのか？どんなルーツを辿ってきたのか？

### 釈台

**Q** 何で「釈台 (しゃくだい)」っていうの？  
何のための小机 (釈台) ？

**A** 『講談 (こうだん)』=『講釈 (こうしゃく)』ともいいます。  
講釈で使う道具だから釈台。分かり易く解説することを講釈する  
といえますね。江戸の時代、一般庶民の多くは字の読み書きが出来  
ませんでした。そこで浪人などの知識人が、昔からある本を面白く、  
分かり易く解説 (=講釈) しながら読んで聞かされたのです。これが  
講談のはじまり。釈台は本来、本を置くための物なのです。



※実際に「本牧亭」で使われていた、  
昭和初期の釈台



釈台の上に本を置いていなくても、一席 (演技) の終わりに講師が  
『一席の読み終わりでございます。』

って云うのは、その名残です。

講師を先生と呼ぶのも、当時では学校の先生みたいなのがあったからです。



### 張り扇

**Q** 釈台をバンバンと叩いていた、あの白い棒は何？

**A** みんなにも作成してもらった、あれが「張り扇 (はりおうぎ)」です。  
ただ読んでいるだけではお客様が飽きてしまいますね。張り扇で釈台を  
叩きながら話にメリハリと調子を付け、より面白く聴かせるための道具  
なのです。

- ◎ 句読点の役割も担っています。
- ◎ 張り扇、ボンと一打ちで「早や3年」



講師は自分の声の高さや、質に合わせて、  
自分で張り扇を作成します。

扇を半分に割り、西の内という丈夫な和紙を巻き付けて作ります。



### 扇子・手拭

**Q** 扇子と手ぬぐいは何に使うの？

**A** 『講談』と並び称される日本の二次語彙といえば「落語」ですよね。  
落語と同じように色々なものに見立てて使います。  
扇子は・・・広げて「提灯」、構えて「刀」など  
手ぬぐいは・・・広げて「本」、そのまま「紙入れ (お財布)」など



扇子と手拭いで、様々な物に、見立てます。



ワークショップ実施形態  
及び内容

# 五、みんなでパシ！パシ！

張り扇体験

二、三で講談の演じ方を知っていただきました。  
ここでもう一度「三方ヶ原」を観ると  
見え方が変わってきます。



最初にご覧いただいた「三方ヶ原」の中で叩かれていた張り扇。  
これを全員でチャレンジしてもらいます。  
自分で作った「張り扇」を使ってうってみよう！



一人の講談師が「三方ヶ原」を読みながら、キッカケを出します。  
それに合わせて、児童生徒さん特製の張り扇でたたきます。



指を1本出したら  
張り扇をパン



2本出したら  
パンパン



5本で  
パンパンパンパン

## 「三方ヶ原軍記（みかたがはらくんぎ）」



①頃は元龜三年 申年十月十四日 ①、武田大僧正信玄は①、七重のならし、



ととのえて②、その勢、三万五千余人②、甲府を雷発して①、遠州周智郡、



乾の城主、天野宮内左衛門景貫①、芦田下野守の両人を案内者として①



同国飯田多々羅の両城へ攻めかかる。⑤

ワークショップ実施形態  
及び内容

知識ポイント 講談のジャンル、演出（語り分け）、脚色

## 六、講談ジャンルクイズ

講談には、様々な登場人物が出てきます。主人公によって読み物のジャンルが分かります。  
講談師はそれぞれのジャンルによって、やり方を変えて読みます。（語り分ける）

映し出された絵（登場人物）がどんな人なのか、クイズで当ててもらいます。



軍談

「三方ヶ原戦記」「太閤記」など



武芸物

剣豪が大活躍  
「宮本武蔵」  
「荒木又左衛門」など



白浪物

泥棒さんが大暴れ  
「鼠小僧」「石川五右衛門」など



赤穂義士伝

赤穂浪士の仇討ち



怪談物

お化けが出てくる怖〜い話  
「四谷怪談」など



政談

大岡越前守などの名裁き  
「大島屋騒動」  
「水戸黄門漫遊記」など



お家騒動物

家督争いや、権力争いなどの内部抗争  
「加賀騒動」「伊達騒動」など



力士伝

お相撲さんたちが登場する話  
「寛政力士伝」など

幽霊が出て来る「怪談物」では  
おどろおどろしくなど

お相撲さんが活躍する力士伝では  
力強く、どっしと。

答えが出たところで、  
講談師がその有名なワンフレーズを実演して見せます。

「講釈師、見てきたような嘘をつき」と昔から言われています。  
講談師は自分が実際に行ったことも、  
見たことも無い時代や出来事（話）に「尾ひれはひれ」を付け、  
荒唐無稽な話をあたかも本当の事のようにしてしまうのです。

講談はこんな風に大げさな脚色をします。

槍をとったる清正、ひとつばらいで10人、ふたばらいで20人、みつばらいで30人～

見事、扇的を射抜きました那須の与一、うわーっと上がった間の声はもの凄く、  
なんと太平洋を越えてハワイまで轟いたと申します。

ワークショップ実施形態  
及び内容



知識ポイント 講談はどうやって出来上がるのか

## 七、学校ニュース講談

キミの学校のエピソードを  
即興で講談にします！

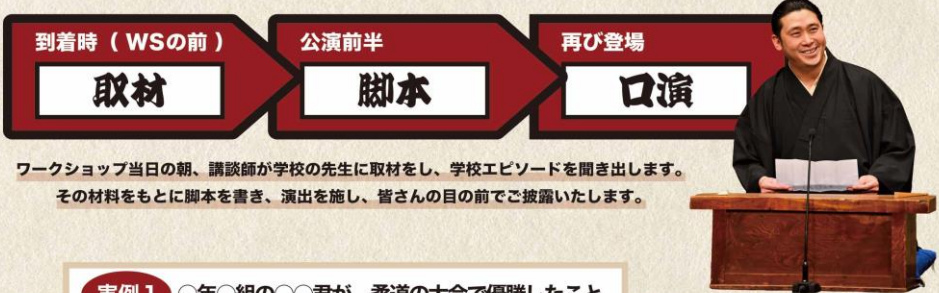
講談師は、取材→脚本→演出→演者を1人で行います！



講談師は現地に赴いて、詳しく調べ、それを本におこし、脚色（演出）を加え、自身で演じていました。  
『清水次郎長伝』などはそのよい例です。  
「講談は嘘と本当の丸木橋」大きく脚色した話に、  
本当の部分（距離や景色など）を織り交ぜることで、話に信憑性を持たせるんですね。

身近な校内ニュースを講談調で聴くことで、  
興味・関心がさらに広がります。  
当日作成のため、学校で起こった旬な出来事をお聞かせ下さい。

ワークショップ実施形態  
及び内容



**実例 1** ○年○組の○○君が、柔道の大会で優勝したこと。

火の国熊本柔道大会において 〇〇組、〇〇君がなんと 優勝したのであります。  
決勝戦では両者ともしのぎを削る激しい戦いの上  
勝利を収めた。ここに未来のエースが誕生するのであります。

**実例 2** 飼育係が可愛がっていたウサギが、赤ちゃんを5匹も生んだ。

彩の国さいたまの小学校において  
春先の訪れとともに幸せなニュースが舞い込んできました。  
皆に愛されているウサギのピョン吉に  
子供が5匹誕生したのである  
子供たちは皆に愛され、めでたく幸せに暮らすのであった



ハ、

大きな声で発声

# 講談チャレンジ

其の一

全員お稽古!

遠くまで聞こえる声で、ハッキリと読むことが大事です。

**背筋を伸ばして正しい姿勢で。大きな声で。**

1

お手本を見せます。



2

全員で一行ずつ復唱してもらいます。



3

手を挙げた生徒さんに高座で実演してもらいます。

我こそは〇〇学校〇年〇組  
リフティングにかけては  
誰にも負けぬ〇〇(名前)である  
我と思わんものは  
尋常の勝負におよべ

※セリフをプロジェクターで

ゲーム好きにかけては・・・

メダカの飼育にかけては・・・

など自由に  
自分が得意なことを入れます。



※たくさんの生徒さんが手を挙げる、大人気のコーナーです。

より講談調で発声

ハ、

# 講談チャレンジ

其の二

グループお稽古!

低学年・中学年・高学年の3グループに分かれてお稽古をします。

3人一組で講談の一説をやります。

\*中学校では学年ごとにグループ分けをします。

低学年

『水戸黄門』

- ・水戸黄門役
- ・助さん役
- ・角さん役



高学年

『修羅場』

- ・前半
- ・中盤
- ・後半

中学年

『義経と弁慶』 ・義経役・弁慶役・(ト書き)役

【本公演までに】

各グループで代表の組  
を選んでもらいます。



お稽古の成果を、  
本公演で発表して  
頂きます。

ワークショップ実施形態  
及び内容

次回（後半）は本公演です

## 九、連続講談（前半）〈海賊退治、はらばら天狗、客本武藏など〉

現代では一話読み切りが多いですが、  
講談は本来、連続物といって何席もあるものです。  
あえて面白くなるところで終わり、また次回に繋ぎます。  
現在のテレビドラマみたいなものです。

### 海賊退治 の場合

#### ワークショップ ※5分～10分

上州・高崎に仇である種田五郎左衛門がいると分かった笹野権三郎であるが、  
すんでのところまで逃げられてしまった。  
権三郎は九州に向かう船、風早丸に乗り込む。

（

「さあこれから権三郎と西海灘衛門の血沸き肉躍る決闘の火蓋が切って落とされる事となる、  
ここからが面白い所ですが、残念ながらお時間となってしまいましたようで、  
この続きは本公演で申し上げさせていただきます。」

続きは本公演で

お楽しみに！

#### 本公演 ※5分～10分

（軽く前回のあらすじを言ってから）

「さていよいよ相まみえる事になりました二人」

### ～ 決闘のシーン（修羅場）～

「見事、海灘衛門を倒した権三郎、  
おかげでこれより瀬戸内海、安心して航行できるようになったと申します。  
海賊退治の一席の読み終わりでございます。」

ワークショップ実施形態  
及び内容

# ワークショップの様子



▲まずは講談を一席



▲講談ワークショップのスタートです



▲解説（釈台について）



▲解説（手ぬぐいについて）



▲解説（張り扇について）



▲張り扇体験。  
みんなでパンパン！



▲プロジェクターを使って  
講談のジャンルの説明



▲ニュース講談。学校のエピソードを講談にします



▲代表者に講談の発声をチャレンジしてもらいます



▲学年毎などグループに分かれて講談のお稽古



▲ワークショップと本公演で  
続く連続講談の一席



ワークショップ実施形態  
及び内容